

# 東京女子医科大学病院麻酔科専門研修プログラム

## 1. 専門医制度の理念と専門医の使命

### ① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

### ② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

## 2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。本研修プログラムを通じて、その後のサブスペシャリティの選択および研修へ円滑に移行できることをさらに目標とするものである。当基幹施設の豊富な症例数、加えて多くの関連研修施設における多様で幅広い研修により、柔軟に対応できる力強い麻酔科専門医を輩出できるものと確信している。

## 3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち3ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B）、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）、地域医療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例E）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 専門医研修終了後に海外留学や大学院進学を希望する専攻医に対しても、研修中よりそれぞれ必要な情報を提供し、円滑に進めるように配慮していく。
- 地域医療の維持のため、立川病院、熊本病院での研修を専攻医に対し積極的に促していく。

#### 研修実施計画例

	A (標準)	B (小児)	C(ペイン)	D(集中治療)	E(地域医療)
初年度 前期	本院	本院	本院	本院	本院
初年度 後期	本院	本院	本院	本院	本院
2年度 前期	本院	本院	本院	本院、成育医療センター	本院
2年度 後期	本院	成育医療センター	本院(ペイン)	本院(集中治療)	立川病院
3年度 前期	がんセンター	成育医療センター	本院(ペイン)	本院(集中治療)	立川病院
3年度 後期	成育医療センター	がんセンター	川口病院	川口病院	熊本病院
4年度 前期	川口病院	河北病院	成育医療センター	がんセンター	熊本病院
4年度 後期	本院(ペイン または集中治療)	本院(ペイン または集中治療)	本院	本院	本院

#### 週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：9,925症例

本研修プログラム全体における総指導医数：19人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	498症例
帝王切開術の麻酔	582症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	657症例
胸部外科手術の麻酔	561 症例
脳神経外科手術の麻酔	1,015症例

① 専門研修基幹施設

東京女子医科大学病院（以下、本院）

研修プログラム統括責任者：尾崎 眞

専門研修指導医：尾崎 眞（麻酔、集中治療）

野村 実（麻酔）

小谷 透（麻酔、集中治療）

樋口 秀行（麻酔、ペイン）

尾崎 恭子（麻酔）

黒川 智（麻酔）

深田 智子（麻酔）

岩出 宗代（麻酔、ペイン）

高木 俊一（麻酔、ペイン）

近藤 泉（麻酔）

横川 すみれ（麻酔）

濱田 啓子（麻酔）

庄司 詩保子（麻酔）

清野 雄介（麻酔）

木下 真帆（麻酔）

岩田 志保子（麻酔）

鎌田 ことえ (麻酔)  
糟谷 祐輔 (麻酔、ペイン)  
佐久間 潮里 (麻酔)

専門医：虻川 有香子 (麻酔)  
寺田 尚弘 (麻酔、集中治療、救急、)  
中山 理加 (麻酔)  
土井 健司 (麻酔)  
畔柳 綾 (麻酔)  
伊藤 祥子 (麻酔)  
権田 希望 (麻酔)  
金森 理絵 (麻酔)  
佐藤 麻衣子 (麻酔)  
佐藤 敬太 (麻酔)  
太期 ふたば (麻酔、救急)  
古井 郁恵 (麻酔)  
丸山 恵梨香 (麻酔)  
西本 雅 (麻酔)  
梁木 理史 (麻酔)

認定病院番号 32

特徴：豊富な症例数を背景とした包括的な麻酔研修、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も可

麻酔科管理症例数 7,960症例

	本プログラム分
小児 (6歳未満) の麻酔	369症例
帝王切開術の麻酔	246症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	388 症例
胸部外科手術の麻酔	248 症例
脳神経外科手術の麻酔	677症例

## ② 専門研修連携施設A

公立昭和病院 (以下、公立昭和病院)

研修実施責任者：野中 明彦

専門研修指導医：野中 明彦 (麻酔, ペインクリニック)

沼崎 満子（麻醉）  
 田中 健介（麻醉）  
 勝田 友絵（麻醉、緩和、ペインクリニック）  
 山口 和将（麻醉、救急、集中治療）

認定病院番号 285

特徴： 地域がん診療連携拠点施設、地域周産期母子医療センター、第三次救急を担う  
 地域の中心施設、緩和・ICUのローテーションも可能

麻醉科管理症例数 3,422症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	33症例
帝王切開術の麻醉	218症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	74 症例
胸部外科手術の麻醉	135 症例
脳神経外科手術の麻醉	310症例

立川総合病院（以下、立川病院）  
 研修実施責任者：山縣 克之  
 専門研修指導医：山縣 克之（麻醉）  
 専門医：清水 敬介（麻醉）

認定病院番号 1469

特徴： 地域における循環器医療の中心施設

麻醉科管理症例数 1,636症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	25症例
帝王切開術の麻醉	71症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	269 症例
胸部外科手術の麻醉	36 症例
脳神経外科手術の麻醉	25症例

朝霞台中央総合病院（以下、朝霞台病院）

研修実施責任者：小高 桂子

専門研修指導医：小高 桂子（麻酔、ペインクリニック）

松本 克平（麻酔）

成島 光洋（麻酔）

藤田 淳子（麻酔）

筒井 健次（麻酔）

乾 龍男（麻酔）

認定病院番号 1268

特徴：院内緩和ケアチームの主軸として活動中、2017 年末に完成する新病院には 20 床緩和ケア病棟有。ペインクリニック緩和ケア外来新設。専門医の取得可能です。訪問診療も計画中。

麻酔科管理症例数 2,174症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	15症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	13 症例
脳神経外科手術の麻酔	70症例

済生会熊本病院（以下、熊本病院）

研修実施責任者：原武 義和

専門研修指導医：原武 義和（麻酔）

坂田 羊一朗（麻酔）

加藤 清彦（麻酔）

國徳 裕二（麻酔）

藤田 ミキ（麻酔）

専門医：村上 幸太郎（麻酔）

認定病院番号 469

特徴：救急医療、高度医療を推進している超急性期病院であり、心臓血管外科、脳神経外科、胸部外科で豊富な症例を有しています

麻酔科管理症例数 4,093症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	100 症例
胸部外科手術の麻酔	50 症例
脳神経外科手術の麻酔	50症例

国立成育医療研究センター（以下、成育医療センター）

研修実施責任者：鈴木 康之

専門研修指導医：鈴木康之（麻酔・集中治療）

田村高子（麻酔・緩和医療）

糟谷周吾（麻酔）

遠山悟史（麻酔）

佐藤正規（麻酔）

小暮泰大（麻酔）

専門医：山下陽子（麻酔）

森由美子（麻酔）

丹藤陽子（麻酔）

山田美紀（麻酔）

認定病院番号 87

特徴：

- ・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。
- ・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
- ・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植）、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
- ・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる
- ・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

麻酔科管理症例数 4,521症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔	0 症例

(胸部大動脈手術を含む)	
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

### ③ 専門研修連携施設B

東京女子医科大学東医療センター（以下、東医療センター）

研修実施責任者：小森 万希子

専門研修指導医：小森 万希子（麻酔、ペインクリニック）

小高 光晴（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

西山 圭子（麻酔、集中治療）

市川 順子（麻酔）

専門医：安藤 一義（麻酔）

認定病院番号 61

特徴：多数の手術麻酔の症例経験とペイン、集中治療ローテーション可能

麻酔科管理症例数 3,597症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

東京医科大学病院（以下、東京医科大学病院）

研修実施責任者：内野 博之

専門研修指導医：内野 博之（麻酔、ペインクリニック、集中治療）

大瀬戸 清茂（麻酔、ペインクリニック）

田上 正（緩和医療、麻酔）

今泉 均（集中治療、麻酔）

荻原 幸彦（麻酔、集中治療）

西山 隆久（ペインクリニック、麻酔）

福井 秀公（ペインクリニック、麻酔）



柿沼 孝泰（麻醉）  
 関根 秀介（集中治療、麻醉）  
 吉田 真一郎（麻醉、集中治療）

専門医：板橋 俊雄（麻醉）  
 金子 恒樹（麻醉）

認定病院番号 28

特徴：麻醉・集中治療・ペインクリニック・緩和が学べる

麻醉科管理症例数 5,939症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	0症例
帝王切開術の麻醉	0症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻醉	0 症例
脳神経外科手術の麻醉	0症例

東京女子医科大学八千代医療センター（以下、八千代医療センター）

研修実施責任者：森岡 宣伊

専門研修指導医：森岡 宣伊（麻醉）

佐藤 二郎（麻醉）

専門医：前原 千彩（麻醉）

認定病院番号 1291

特徴：全科の麻醉研修が可能。総合周産期センターを有し無痛分娩を含む産科麻醉、小児麻醉の豊富な症例数。集中治療へのローテーション可能。

麻醉科管理症例数 2,685症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	0症例
帝王切開術の麻醉	0症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	0 症例
脳神経外科手術の麻醉	0症例

国立がん研究センター中央病院（以下、がんセンター）

研修実施責任者：佐藤 哲文

専門研修指導医：佐藤 哲文（麻酔、集中治療）

木下 陽子（麻酔）

新井 美奈子（麻酔）

白石 成二（麻酔）

専門医：松三 絢弥（麻酔）

柴田 麻理（麻酔）

認定病院番号 43

特徴：集中治療のローテーション可能

麻酔科管理症例数 4,484症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	60症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	150 症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

東京都保健医療公社大久保病院（以下、大久保病院）

研修実施責任者：芦刈 英理

専門研修指導医：芦刈 英理（麻酔）

専門医：田中 久美子（麻酔）

蛭名 佳子（麻酔）

塩谷 雅子（麻酔）

認定病院番号 701

特徴：地域支援病院と地域における腎医療の中心施設（腎移植の実施）

麻酔科管理症例数 1,072症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例

胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	23症例

がん研有明病院（以下、がん研有明病院）

研修実施責任者：横田 美幸

専門研修指導医：横田 美幸（麻酔、集中治療）

田中 清高（麻酔、ペインクリニック）

関 誠 （麻酔、ペインクリニック）

長田 理 （麻酔）

佐野 博美（麻酔、ペインクリニック）

平島 潤子（麻酔）

七松 恭子（麻酔）

森野 良蔵（麻酔）

玄 運官 （麻酔）

山本 理恵（麻酔）

蛭名 稔明（麻酔）

三木 美津子（麻酔）

大里 彰二郎（麻酔）

山内 章裕（麻酔）

認定病院番号 779

特徴：がん専門病院としての先進的な医療と豊富な症例、及び  
麻酔・手術、そして周術期管理、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も可能

麻酔科管理症例数 6,997症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

湘南鎌倉総合病院（以下、湘南鎌倉病院）

研修実施責任者：小出 康弘

専門研修指導医：小出 康弘（麻醉）  
                   小田 利通（麻醉）  
                   野見山 延（麻醉）  
                   豊田 浩作（麻醉）  
                   加古 英介（麻醉）  
                   渡辺 桂（麻醉）

専門医：迫田 厚志（麻醉）  
           石川 亜希子（麻醉）  
           福井 公哉（麻醉）  
           石橋 美智子（麻醉）  
           相野田 桂子（麻醉）  
           小澤 寛子（麻醉）

認定病院番号 1436

特徴：救急外来が活発な急性期病院、先進的な循環器カテーテル治療に力を注いでいる

麻醉科管理症例数 4,959症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	0症例
帝王切開術の麻醉	0症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻醉	0症例
脳神経外科手術の麻醉	0症例

東京都保健医療公社豊島病院（以下、豊島病院）

研修実施責任者：吉岡 斉

専門研修指導医：吉岡 斉（麻醉、ペインクリニック）

専門医：小出 博司（麻醉）

          小川 敬（麻醉）

          篠崎 正彦（麻醉）

認定病院番号 899

特徴：都北西部の地域医療を担う施設。ペインクリニックと緩和医療のローテーションが可能である。

麻醉科管理症例数 2,161症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	99 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	5 症例
脳神経外科手術の麻酔	55症例

埼玉県済生会川口病院（以下、川口病院）

研修実施責任者：根岸 千晴

専門研修指導医：根岸 千晴（麻酔）

五十嵐 妙（麻酔）

今井 美奈（麻酔）

専門医：中橋 剛（麻酔）

宮崎 裕也（麻酔）

大畑 亮介（麻酔）

認定病院番号 4357

特徴：アクティブな外科系による豊富な手術件数、経験豊かな指導医のもとで多くの手技を学べます

麻酔科管理症例数 2,651症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

河北総合病院（以下、河北病院）

研修実施責任者：中村 ミチ子

専門研修指導医：中村 ミチ子（麻酔）

宇佐美 夕子（麻酔）

認定病院番号 824

特徴：消化器外科・整形外科の麻酔が多い。高齢者の麻酔・脊髄クモ膜下麻酔の症例が多い。

麻酔科管理症例数 2,135症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	21症例
帝王切開術の麻酔	51 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	59 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	68症例

総合守谷第一病院（以下、守谷病院）

研修実施責任者：三浦 芳則

専門研修指導医：三浦 芳則（麻酔）

認定病院番号 1238

特徴：地域唯一の総合病院として小児科や産婦人科も開設している。若い人が多い地域であるので、産婦人科では帝王切開の症例数も多く行われている。

麻酔科管理症例数 1,673症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	3症例
帝王切開術の麻酔	85 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	15症例

聖隷浜松病院（以下、聖隷浜松病院）

研修実施責任者：鳥羽 好恵（麻酔）

専門研修指導医：小久保荘太郎（麻酔）

鳥羽好恵（麻酔）

小倉富美子（麻酔）

専門医：入駒慎吾（麻醉）  
           鈴木清由（麻醉）  
           奥井悠介（麻醉）  
           池上宏美（麻醉）  
           山田博英（緩和）  
           田中茂（救急）  
           渥美生弘（集中治療）

認定病院番号 233

特徴：新生児から成人の各分野において豊富な手術麻醉を経験可能

麻醉科管理症例数 6,951症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	0症例
帝王切開術の麻醉	0 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻醉	0 症例
脳神経外科手術の麻醉	0症例

名古屋共立病院（以下、名古屋共立病院）

研修実施責任者：朝倉 雄介

専門研修指導医：朝倉 雄介（麻醉、集中治療）

認定病院番号 1428

特徴：透析患者の血管系麻醉、および頭蓋底腫瘍の麻醉に関しては十分な経験が踏めることを約束します

麻醉科管理症例数 536症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻醉	0症例
帝王切開術の麻醉	0 症例
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	36 症例
胸部外科手術の麻醉	10 症例
脳神経外科手術の麻醉	30症例

埼玉協同病院（以下、埼玉協同病院）

研修実施責任者：黒羽根 朋子

専門医：黒羽根 朋子（麻酔）

認定病院番号 1656

特徴：臨床現場における、適切な臨床的判断能力，問題解決能力の養成。

麻酔科管理症例数 1,656症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	1症例
帝王切開術の麻酔	97 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	40 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

谷津保健病院（以下、谷津保健病院）

研修実施責任者：高良 到

専門研修指導医：高良 到（麻酔）

武智 晶子（麻酔）

専門医：塚本 加奈子（麻酔）

認定病院番号 1154

特徴：地域医療支援病院

麻酔科管理症例数 963症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例



成和会 西新井病院（以下、西新井病院）

研修実施責任者：曾根 依子

専門研修指導医：曾根 依子（麻酔、ペインクリニック）

専門医：井筒 公一朗（麻酔）

認定病院番号 793

特徴：地域医療貢献と周術期管理が行えます。

麻酔科管理症例数 412症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例
脳神経外科手術の麻酔	38症例

## 5. 募集定員

7名

（\*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

## 6. 専攻医の採用と問い合わせ先

### ① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2016年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

### ② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、東京女子医科大学病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

東京女子医科大学病院 麻酔科学教室

尾崎 眞 教授

東京都新宿区河田町8-1

TEL 03-3353-8112（内線39312）

E-mail [ikyoku@anes.twmu.ac.jp](mailto:ikyoku@anes.twmu.ac.jp)

## 7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

### ① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

### ② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

### ③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

## 8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

## 9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

### 専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

### 専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

### 専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

### 専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

## 10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

### ① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

## ② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

## 11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

## 12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

## 13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

### ① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

### ② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

### ③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

## 14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての立川総合病院、済生会熊本病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。